

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------------|
| 事業所番号 | 2375000284 |
| 法人名 | 有限会社 空 |
| 事業所名 | グループホーム「ハーモニー」 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 2 月 22 日 |
| 評価確定日 | 平成 20 年 3 月 17 日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月14日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|-----------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2375000284 | | |
| 法人名 | 有限会社 空 | | |
| 事業所名 | グループホーム「ハーモニー」 | | |
| 所在地 (電話番号) | 愛知郡長久手町大字長湫字西浦63-8 (電話) 0561-64-5056 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F | | |
| 訪問調査日 | 平成20年2月22日 | 評価確定日 | 平成20年3月17日 |

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|------------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成13年5月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 2 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 6.3 人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-----|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 1 階建ての | 1 階 ~ | 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|-----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 60,000 円 | その他の経費(月額) | 水道光熱費他20,000円程度 | |
| 敷金 | 有(円) | | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 350 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 350 円 | おやつ | 200 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

| | | | | | | |
|-------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 利用者人数 | 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 9 名 | |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 3 名 | | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 名 | | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 82 歳 | 最低 | 68 歳 | 最高 | 92 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 祖父江クリニック ふくい歯科医院 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から7年、管理者は「認知症介護は介護専門家で」という信念のもとにホーム運営に取り組んできたが、現在は、「介護離れ」の現実もあり、専門性を貫くことが難しくなってきたという現状がある。しかし、この難しい状況の中でも、理念達成を目指し、目標を持って職務に当たる管理者・職員の姿は、利用者の「その人らしさ」を見つめ支える支援の反映であることが十分に推察できる。ホーム利用者の生活は理想的な「普通」である。自分を見守ってくれる目、支えてくれる手、元気付けてくれる言葉が日常的にそこにあり、望まなくても寄り添ってくれる安心感がある。利用者同士、また、利用者職員が支え支えられる生活は、利用者にとってのかけがえのない「普通」なのであろう。今回評価では、「人の役に立つ喜び」という利用者の尊厳を守り、陰で支える介護の実践、介護職としての熱意をこのホームの特色として特記したい。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 地位との交流・利用者の金銭管理・記録管理についての3点を提案させていただいた。地域との交流に関しては、子ども会・隣接福祉施設との連携で、ホーム行事の充実を図り、利用者金銭管理については、家族と話し合いの上利用者個人の小額管理を実現している。記録管理については、効率化を考えた改善意識につなげている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 日ごろの支援の振り返りとして、ケアカンファレンス・ミーティング時を利用したホーム全体での取り組みを行なった。管理者の意見として、職員に意見を求めてもなかなか出ないとの課題もあり、来年度に向けた取り組みにも期待ができる。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 概ね2ヶ月に1度会議を開催し、ホームの活動状況・運営状況の説明を行い、質問・助言を受けている。ホームからの説明・報告には、利用者の状況・状態等、認知症高齢者の状態を網羅し、家族・地域に向けてホームが取り組む事実を説明し、情報として提供している。運営推進会議を開催することによって、家族の協力・地域の理解は広がっており、会議の意義は理解されているといえる。また、会議で話し合われた内容はホームのミーティングで報告し、職員周知を図り、新たな取り組み・改善につなげている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 重要事項説明書に苦情受付体制を明示し、口頭での説明も行なっている。また、家族の不安に配慮し、利用者の日常生活の様子を1ヶ月に1度定期的に報告し、状況・状況変化の場合は随時速やかに連絡を行なっている。今回家族アンケートでは、ホームの対応に感謝の言葉が寄せられ、意見・希望の言いやすさ、意向実現の努力等が推察できた。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 新興住宅地という立地もあり、近隣との交流は少ない状態ではあるが、散歩・外出時の馴染みの方との立ち話、家庭菜園のおすそ分け、地域民生委員の所属するコーラスグループの訪問等、利用者の日常に楽しみな関係作りは行なわれている。現在近隣の小中学校へのアプローチ(体験学習・総合学習等)は長久手町福祉の家の職員に相談中であり、ホーム機能を地域に還元する取り組みも進行中である。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | | 地域密着型サービスとしての理念 | | | |
| 1 | 1 | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 管理者の信念が「地域で暮らす 集まって楽しく住む」というホーム理念に反映されており、具体的方針(ハーモニーの誓い)を含め、ホーム理念として掲げている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 年頭挨拶では管理者が理念・方針について再確認の意味も含めて職員に周知を図り、さらに、毎週のカンファレンスの中で「ハーモニーの誓い」を職員に話し、管理者の思いを伝えている。職員はそれをよく理解し、個別の介護計画に反映し、理念・方針実践の統一意識で支援に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 利用者は身体機能低下等で積極的に地域活動に参加する機会は少なくなっているが、散歩・外出の際の顔見知りの方との立ち話、家庭菜園のおすそ分け、馴染みの地域民生委員の所属するコーラスグループの訪問等でご近所つきあいを楽しんでいる。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 毎月一度行われる職員全員参加のケアカンファレンスの中で自己評価を行い、内容を検討・検証しながら振り返りの評価を行なっている。また、自己評価・外部評価の結果から改善点を抽出し、具体的な改善を行いながら、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活動報告・質疑応答等の会議は一時間と決め、その後は利用者も全員参加で「お話し会」を行なっている。一つのレクリエーションのようにすることで、ホームの様子を理解していただき、自然と意見が出る雰囲気作りに配慮している。また、会議で話し合われた内容はホームのミーティングで報告し、職員周知を図り、新たな取り組み・改善につなげている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 行政担当の運営推進会議参加がきっかけとなり、より良い関係が構築されている。ホームの運営上の相談・取り組みの情報を共有し、共に情報交換・情報収集を行い、ホームのサービスの質の向上に活かしている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用料支払いは家族に来院していただき、支払いをしていただく事を取り決め、月に一度は利用者の暮らしぶりを確認していただく意味でもお願いをしている。来院時にはホーム一便り・介護計画等を手渡し、利用者の様子を直接報告している。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 廊下掲示板に相談窓口の案内を掲示するとともに、家族来院時には、必ず職員から声かけを行い、意見・要望の聴き取りを行なっている。要望実現へのホームの対応に、今回の家族アンケートの中にも感謝の言葉が多くみられた。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者は馴染みの職員での介護を目指し実践している。やむを得ない場合の退職・異動・新規採用の場合は、利用者に対して、繰り返しの説明、繰り返しの挨拶を行い、利用者の不安に配慮している。 | | 管理者は、職員の今後の離職・産休・結婚退職等の場合を考え、引き継ぎ方法・内容の計画、マニュアル化(チェックリスト等)を課題としており、今後の検討・進捗に期待するところである。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月1回の勉強会・毎週のカンファレンス後の時間を活用し、内部研修を行っている。また、外部研修にも積極的に参加を考えている。研修受講者は受講後に内部研修等で報告・発表を行い、職員全体への周知を図っている。 | | 現在まで、管理者・職員共にホームの歴史と共に成長し、日常のOJTで理念・意識の共有を実現できたが、時間を経て、職員に異動が生じると、それまで可能であった事が不可能に近い状況になることが懸念される。利用者に対し、全職員同対応の実現を目標に、現任職員・新任職員の意識統一・技術向上を目指し、力量・段階を考えた研修・育成計画策定検討を提案したい。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営者はホーム運営に熱意を持ち、サービスの質の向上にも意欲的である。長久手町グループホーム連絡会の研修参加・交換研修参加、他事業所見学等、他事業所との情報交換・意見交換を活かし、自身のホームの支援向上に反映させている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>利用決定までには、利用希望者・家族に見学・体験等で来所を重ねていただき、ホーム・他の利用者・職員と馴染んでいただく事から始め、入居には本人の最終決定をとっている。過去には1ヶ月ホームに通って体験していただき、ホームに慣れたのち入居を決定したケースもあり、本人の自己決定への十分な配慮がうかがえる。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>利用者と職員がともに台所に立つ姿、職員と利用者が話す雰囲気は、ホームの「利用者主体の介護」前提の支援の実践がうかがえる。家事作業では利用者が自然と手を動かし、にこやかに微笑み、おしゃべりを楽しみ、と、ごく普通の「年寄りのいる家」の光景が見られた。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>利用者との日常の関り・会話の中から、希望・意向の把握に努めている。訪問調査の視察でも、職員の声かけはおだやかでやさしく、「聞き上手」の姿勢がうかがえた。会話が困難な利用者に対しては、寄り添うような声かけがあり、表情・うなずきからも利用者の意向を読み取る支援努力が行なわれている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>毎週ケアカンファレンスを開催し、利用者一人ひとりの介護計画について話し合う時間を設けている。家族来訪時には相談を重ね、利用者本位の計画を立案・作成している。</p> | | <p>チームで行なう支援の位置付けとして、どの職員でも意見が言いやすい環境を整え、新人職員の小さな意見・気づきを介護計画に反映できるような、今後ますますの職員間の関係作りに期待し、お願いするところである。</p> |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>利用者毎に介護計画の期間設定を行い、モニタリングを実施しながら、利用者の状況・状態・意向の把握を行い、変化がある場合には随時に迅速な対応(見直し)を行なっている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームに看護師を配置し(管理者兼務)、医療連携を図るとともに、利用者の日常の健康管理、24時間の見守りに対応し、利用者・家族の安心となっている。また、利用者・家族の要望には、ホームとして柔軟に対応し、利用者満足への支援に努めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホーム協力医受診の他、希望があれば利用者の馴染みのかかりつけ医の受診も可能としている。通院は原則として家族にお願いしているが、通院・受診に関しては家族と情報を共有し、利用者の状態についても適切に把握している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | どの職員も利用者の重度化が一番の課題と気付いており、現段階では、終末期に向けた対応を職員や家族・関係者と協議中である。全員の意識統一・方向性の確立後に具体的な方針の共有を行なうこととしている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者のプライバシーの確保は職員に徹底されている。利用者の尊厳を守り、陰で支える支援は、ホームの特色と行っても過言ではない。訪問調査の視察時、居室の見学の際も、管理者が挨拶をし、了解の得られた利用者に限ってお部屋を拝見させていただき、利用者の受け答えからも、ホームの日常的な配慮が感じられた。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ホームの共同生活の場としての大まかな時間の決まりはあるが、ホーム側からの一方的な提供による支援は極力行わない方針である。その日・その時間・その人の都合で、体調も踏まえた個別支援を目標とし、利用者の意向に沿った支援に努めている。 | | 職員育成とも関係すると思われるが、利用者の尊厳を守り、その人らしい生活の確保を図るには、全職員の意識統一・力量確保が必須であると思われる。今後、ホームの特色とも言える、徹底した「利用者本位の普通の生活」の確保を考えると、職員が時間・都合の優先を考えずに支援体制の組める、ソフト・ハード両面の「ゆとり」の検討が望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の嗜好の把握に努め、食の楽しみに配慮している。現在は洋食が好きという利用者が多いとのことであり、視察時の昼食時もハヤシライスをおいしく楽しくいただくことができた。また、利用者が職員とともに台所に立ち、調理を手伝う姿、野菜の下ごしらえを行なう姿等があり、ほのぼのとした雰囲気の中に利用者の役割とやりがいを感じた。 | | 「好きなものをおいしく楽しくみんなで食べる」雰囲気は、理念にある「集まって楽しく住む」につながっている。視察できた食事風景始めホームの共同生活はまさにホームのあるべき姿であると確信できるので、今後ますますの支援努力をお願いするところである。 |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の「夕食前までに一日の汚れを落としておきたい」という意向で、夕方の時間に入浴している方が多い。入浴時間・入浴順はその日の利用者の希望を聴き取り、対応に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 家族が知り得なかった本人の趣味(ピアノ演奏等)・特技(家事全般)を日常生活の中から見出し、把握し、力を発揮できる場面作りを行なう事で、利用者の「人の役に立つ喜び」につなげている。訪問時の視察でも、それぞれの役割とやりがいを表出する場面作りの配慮に感銘を覚えた。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 季節柄、頻繁の外出が困難な時期を除き、日常的な散歩・外出の機会作りに努めている。また、自立歩行が困難な利用者に対しての同行・介助について、ホーム全体で課題化し、検討を行なっている。 | | 運営推進会議で、会議参加者から、利用者外出時介助の苦勞へのねぎらいの発言があり、ボランティアで支援を行いたいという申し出もあった。日常報告から、高齢者介護の理解を得たケースであり、ボランティア受入れが実現すれば、地域連携の足がかりともなる。職員負担軽減も含め、実現の検討に期待するところである。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 管理者・職員は、利用者の自由な暮らしを考え、様子・外出希望の見守りに配慮し、利用者が外出を希望する場合は、抑制するのではなく、利用者が納得の行くまで同行・後方支援の実践を方針としている。帰宅願望のある利用者にも、毎日何時間も後方支援を実践する職員の熱意には感心させられるものがある。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害に備え、三日分の飲料水・食料をリビング脇に備蓄している。近隣の図書館が公共の避難所になっており、職員間で非難方法についても検討を行なっている。火災に対する避難訓練は、消防署の協力を得、定期的実施し、利用者の安全に配慮している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者全員の水分・食事の摂取量を介護記録に記録し、職員間で情報の共有を図っている。食事内容に関しては、昼食をメインに考え、夕食を控えめにする等の配慮を行ない、一日を通しての栄養バランスを考えている。水分に関しては一日の目標摂取量の目安を数値化し、具体的に摂取量を記録し、管理している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間は天井が高く開放的で、採光・空調に関しても、利用者にとって快適な空間提供となっている。床暖房のおかげで足元まで温かく、利用者の生活にやさしい心遣いをうかがい知ることができた。掃除は、ほうきでの掃き掃除がホールの隅々まで行き届き、どこを視察しても清潔であった。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の物はすべて持参していただいております、それぞれの部屋に利用者の個性が光っていた。また、家具・日常雑貨等、家族の協力を得て設置されたものが多く、利用者が落ち着いて暮らせる空間に家族の思いが感じられた。 | | |